

アフリカの経済成長が日本の農業・農村を救う

アフリカ向けコメ輸出は可能

アフリカのコメ市場は一番の成長マーケットだ。日本米の輸出はゼロ。ジャポニカ米は彼らの嗜好に合わないのであろうか。アフリカのコメに関しては稲作振興のODAばかり聞こえてくるが、ビジネスの話題にも目を向けてみたい。

日本のコメ輸出は順調に伸びている。2010年は1898tであったが、21年は2万2833tである。この10年で10倍以上に拡大した。とはいえ、まだ2万t台であり、生産量700万tの0.3%に過ぎず、国内の過剰米解消、減反緩和に寄与できる水準ではない（コメ輸出論については本誌20年11月号本欄参照）。

アフリカのコメ市場は巨大で、しかも輸入は増加が続いている。表1に示すように、コメ輸入量は1550万t（精米換算）に達する。日本の生産量の2倍以上だ。しかも、急速に増大している。世界のコメ輸出量は4560万tであるから、今や3分の1はアフリカ向けである。

生産量も増えている。2000年1166万t、10年1735万t、20年2527万t（日本の約4倍）。増加しているものの（10年で50%増）、輸入の伸び（同70～80%増）ほどではないのは、消費の伸びがもっと大きいということであろう。世界も、アフリカも、コメは成長産業である（世界の中で見ると、日本のコメ産業の埋没が目立つ）。

アフリカのコメ市場の高成長の要因は、（コメはトウモロコシ等より高級食材であることが大前提であるが）人口増加と経済成長・所得向上が大きな要因であろう。地域別にみると、輸入規模は人口が4億人を超える西部地域814万t、東部地域423万tと大きい。

注目したいのは輸入価格だ。1t当たり精米価格は南部536ドル、北部503ドル、西部470ドル、

中部446ドル、東部369ドルと、所得水準の高低に対応している。各地のコメ輸入価格は所得水準の序列に一致している。ちなみに、1人当たりGDPは南部4959ドル、北部3103ドル、西部1715ドル、中部1095ドル、東部972ドルである（2020年）。これは経済発展により所得が向上すると、コメ輸入も、より高品質にシフトしていくことを示唆している。

今、アフリカ諸国の主食はトウモロコシやイモ類等であるが、経済発展に伴い、コメ消費にシフトがみられる。コメ輸入の急増はそれを反映している。コメはロング米であり、ジャポニカ等中粒種ではない。日本米の付け入る隙はなさそうにみえる。しかし、丸い米が好きと言うアフリカ人もいる。また、手で食べる習慣があるので「おにぎり」は受け入れられやすいかもしれない。実際、アフリカでも日本食レストランが増えている。

仮に、輸入米の1%を日本米に置き換えると、年15万tのコメ輸出が実現する。問題は価格であるが、出来ないことではない。

アフリカのコメ輸入データ（2020年）

輸入平均価格 444ドル/t（2930円/60kg）
 ガーナの輸入価格610ドル/t（4026円/60kg）
 *日本輸出用米助成金4万円/10a

ガーナのコメ輸入価格は4026円（1ドル＝110円）である。輸出用米は60kg当たり4500円の助成金が出る（新市場開拓用米）。輸出農家は4026＋4500、計8526円で入手できる。規模拡大農家の生産コストは60kg当たり6000円以下であるから、ガーナ価格であれば、十分輸出できる。

アフリカの経済発展は続く。所得向上があれば、輸入米の品質は向上し、輸入価格も上昇、ガーナ価格並みに上がる。アフリカのコメ輸入1550万tの1%、15万tの日本米の輸出は難しくないであろう。現行コメ輸出量の5倍の規模になる。

アフリカへのコメ輸出、夢見てはどうか。かつて夢のまた夢であったアメリカへのコメ輸出はすでに成功している。アフリカの経済発展が日本の農業・農村を救うことになる。また、コメを通して日本への理解が深まる。コメ輸出は親善大使になろう。

表1：世界のコメ輸出市場の成長（単位：万t）

年	日本		世界	アフリカ	
	生産量	輸出量	輸出量	生産量	輸入量
1961	1,214	…	628	287	487
1970	1,253	…	831	486	752
1980	969	…	1,279	574	244
1990	1,046	…	1,241	847	313
2000	947	…	2,339	1,166	499
2010	848	0.2	3,362	1,735	907
2020	776	2.0	4,559	2,527	1,550

日本の“コメ小国”ぶりが目立つ！

出所：世界およびアフリカはFAOSTAT、精米換算（単位：万t）。日本は農水省「作物統計」（累年統計）、輸出は同『米の輸出について』。